

来年度の中村小学校の芝生の維持管理について（要望）

日頃、中村小学校の校庭の芝生に関しまして、ご尽力頂きありがとうございます。

先般、中村小学校グリーンキーパーズ（以下NGK）の12月定例会の席上、来年に向け、区関係者の更なるご協力をいただくべく要望をまとめましたので、宜しく願い申し上げます。

（1）夏芝・ティフトンへの切り替えと冬芝のオーバーシードの適正施工時期と施工方法の実施

今年の冬芝の状況と実態から、この冬のティフトンに対する負担がは大きく、かなりの消失が予測されます。適正な時期と施工方法のもと20年度には再度ティフトンの導入をしていただくよう要望いたします。又、冬芝へのオーバーシードについても、定例会で充分協議し、適正な時期と施工方法を持って実施していただきますよう改めてお願い申し上げます。

（2）現場巡視体制の強化

学校側とNGKは、芝生の状態の日常的な観察を可能な限り行い、協力も惜しみません。しかし芝生の専門知識を持つ視点で状況を判断することは、能力的に不可能であり、芝生担当の方をお願いする他はありません。担当者あるいは外部の専門知識のある方による現場巡回(緊急時を含む)を今以上に強化していただくようお願いいたします

（3）迅速なる対応を取るための区の体制の確立

今年の実態と経験を踏まえ、生き物相手の維持管理であることを再認識していただき、今以上の迅速なる対応をお願いします。病気の発生、気候への対処、その他予期せぬ事態発生時など、担当者が瞬時の判断をして必要な対応が出来るよう、連絡体制を整え迅速に作業できる体制確立の更なる検討をお願いいたします。また、専門性の高い施工に必要な機材（バーチカルシーダー、目砂散布機など）を区内全域の校庭芝生管理に対応できるよう、練馬区で保有、配備することなど、ご検討をお願いいたします。

中村小学校の芝生は、現在のように保護者・学校関係者・地域そして行政が、その思いを共有した上で協同し、それぞれの責任を果たすことで、意味を持つ財産です。

今年の芝生の状態は、我々NGKとしては、試行錯誤の連続で決して満足のいくものではありませんでした。来年に向けて示唆する所の多い結果となったと理解しています。勿論、我々がこれから取り組む課題については、十分内部で議論していきたいと考えています。

現在、多くの保護者が芝生の良さを実感し始めており、協力していく機運も出てきております。だからこそ、今までの事をきちんと再評価することが重要だと思います。区としても、同じ認識でいると思っており、芝生の維持管理において、高い専門性が要求される部分に関しては、区の責任においてしっかり実施していただきたいと改めてお願いいたします。

書面によるご回答を宜しく願い申し上げます。

以上